

水 泳 部

レ ー ス

工学部第四類（建設系）

三年

浜 島

比佐志



今までの応援の声が、嘘みたいに消えてなくなってしまう。夏の日差しが、やけに暑く感じる。まぶしいはず

の、プールの水のきらめきも、ゴール越しては、感ずることもない。そして、今では、スターターの声しか聞こえるものはない。「用意」で頭の中は真っ白、全ては一瞬のことである。

一体全体を、水の冷気が包む。その一瞬が、たまらなく楽しい。しかし、ぐずぐずしている暇なく、手足は動かさなければならぬ。前半の間は、手足はよく動き、泳いでいる間は何も考えないですむ。水をつかみ、水の流れに乗っている感覚だ。後半に入ると、水の中にいる所以の抵抗を感じるようになる。腕の感覚はなくなりつつあるのに、水を掻くために無理に動かす。息は苦しく、息継ぎだけでは足りないくらいだ。それでも泳いでいると、ゴールの壁が見えてくる。しかし、その時からが、レースのうちで一番長く感じる時間である。

最後のゴールのタッチで、レースは終わる。全力を尽くした君には、仲間への応援の声が、再び聞こえてくるだろう。

女子ヨット部

CATCH THE WIND

学校教育学部小学校教員養成課程三年

加 茂

三奈子

二、三月の寒くて風の強い春を、やっと乗り越えて迎えた新入生歓迎の四月。女子ヨット部は三年生が二人、二年生が一人の状態であり、女子が入部してくれるか心配だった。しかし心配は無駄で、男子ヨット部よりも元気のいい女子が十人ほど入部した。活動の拠点が宇品なので交通の便で不自由することが多いが、これからヨットのシーズンの夏を迎える。七月の十六・十七・十八日の国体予選、十月一・二・三日の女子インカレをめざし、部員一丸となり男子ヨット部と一緒に毎日海に出て、風の無い時はパドリングで出る。プロローグが下りてくるのを待ち、風を探し進んでゆく。確かに強風となると、女子と男子の体重差・体力差がありきついの



だが、そこを気力で乗り越え、自艇の方が風にのり速くなり相手艇がだんだん見えなくなってくるときもある。また、レースでは、いかに他艇からの風の影響のない位置で走るか、風を正しく読むかという頭を使う部分も多々ある。海の上では甘いことは言えない。今日も男子に負けないように、女を捨てないように、海に向かう私たちである。